



2016年3月期 通期決算概要

ルネサス エレクトロニクス株式会社
2016年5月11日

2016年3月期 通期決算概要

2016年3月期より、経営者が意思決定する際に使用する指標（以下Non-GAAPベース）を資料上開示しております。

Non-GAAP連結業績は、財務会計上の数値（GAAP）から非経常項目やその他の調整項目を控除したもので、当社グループの恒常的な経営成績を理解するために有用な情報と判断しております。

2016年3月期 第4四半期および通期 業績サマリー

第4四半期の主な半導体売上高増減背景

■ 半導体売上高

前四半期比でほぼフラットを見込んでいたが、自動車向け事業の増収により、前四半期比 + 23億円の1,632億円

第4四半期の主な利益増減背景

■ 売上総利益率および営業利益（率）

売上総利益率は、作り貯め減や製造費用の期末費用集中により、前四半期比△2.8Pts.の40.8%

営業利益率は、売上総利益率の減に加えてR&DおよびSG&Aの期末費用集中もあり、前四半期比△5.8Pts.の9.4%

売上高は前四半期比増であるが、営業利益は前四半期比△92億円の157億円

通期の主な半導体売上高増減背景

■ 半導体売上高

構造改革による非注力製品・事業からの撤退により、半導体売上高は前期比△10.3%の6,756億円

通期の主な利益増減背景

■ 売上総利益率、営業利益（率）および最終利益

売上総利益率は、構造改革による製造固定費削減効果に加え為替影響もあり、前期比 + 3.8Pts.の44.1%

営業利益率は、成長に向けてR&Dが増加するものの、売上総利益率の増加に加え、SG&Aの効率化により前期比 + 1.8Pts.の15.0%

売上高は前年比減であるが、営業利益は前期と同水準の1,038億円、最終利益は最高益更新の863億円

2016年3月期 第4四半期および通期 決算概要

第4四半期の売上高・損益面ともに予想比上振れ、
通期は減収なるも、営業利益は前期比同水準、純利益は前期比増

売上高、半導体売上高の前年同期比、前四半期比、予想比は小数点以下を四捨五入

(億円)	2015年3月期		2016年3月期						
	第4四半期	通期	第3四半期	第4四半期	前年同期比	前四半期比	予想比	通期 (年間累計)	前期比
売上高	1,822	7,911	1,648	1,678	△7.9%	+1.8%	+2.0%	6,933	△12.4%
半導体売上高	1,751	7,533	1,609	1,632	△6.8%	+1.4%	+1.9%	6,756	△10.3%
売上総利益率	42.8%	40.3 %	43.6%	40.8%	△2.0Pts.	△2.8Pts.	+0.8Pts.	44.1%	+3.8Pts.
営業利益(率)	244 (13.4%)	1,044 (13.2%)	250 (15.1%)	157 (9.4%)	△87 (△4.0Pts.)	△92 (△5.8Pts.)	+38 (+2.1Pts.)	1,038 (15.0%)	△6 (+1.8Pts.)
親会社株主に帰属 する純利益	90	824	186	103	+12	△83	+43	863	+39
EBITDA	411	1,710	410	312	△99	△98	+33	1,662	△49
1 米ドル	119円	108円	121円	118円	1円円高	3円円高	2円円高	121円	13円円安
1 ユーロ	140円	140円	134円	130円	10円円高	4円円高	-	133円	7円円高

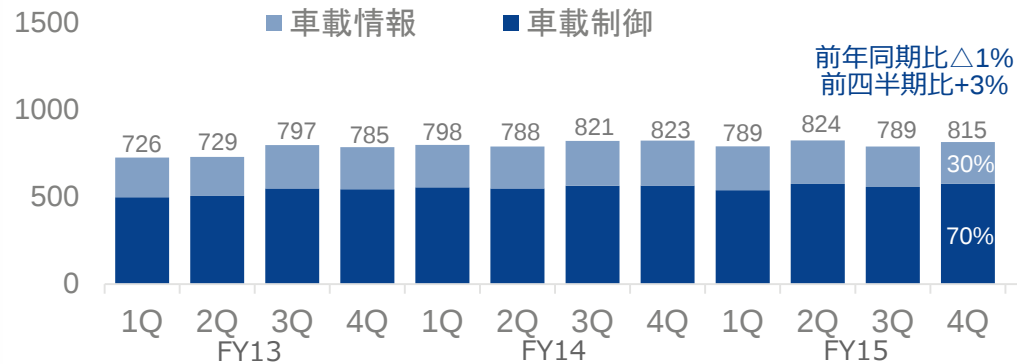
半導体売上高の事業別推移(Non-GAAPベース*1)

自動車：前四半期比は3%増収だが、前年同期比では車載情報での減収により1%減

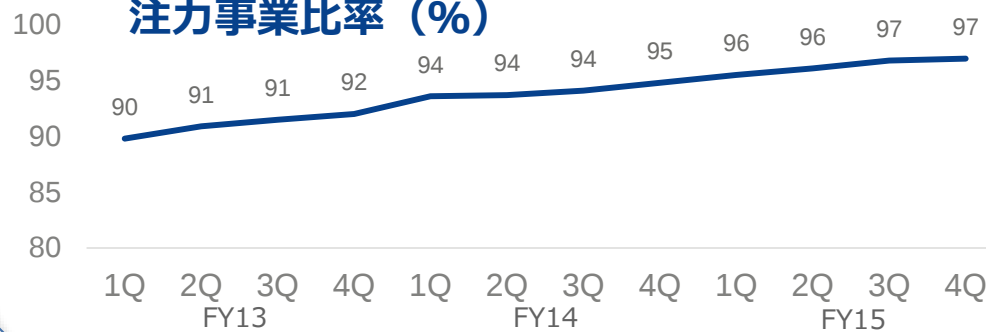
汎用：前四半期比横ばいだが、構造改革およびその他汎用の減収により、前年同期比12%減

自動車向け事業

売上高（億円）

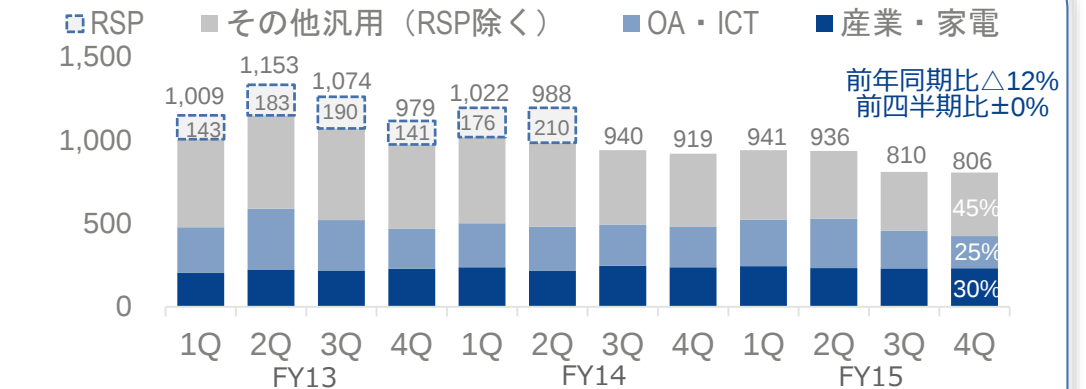


注力事業比率（%）

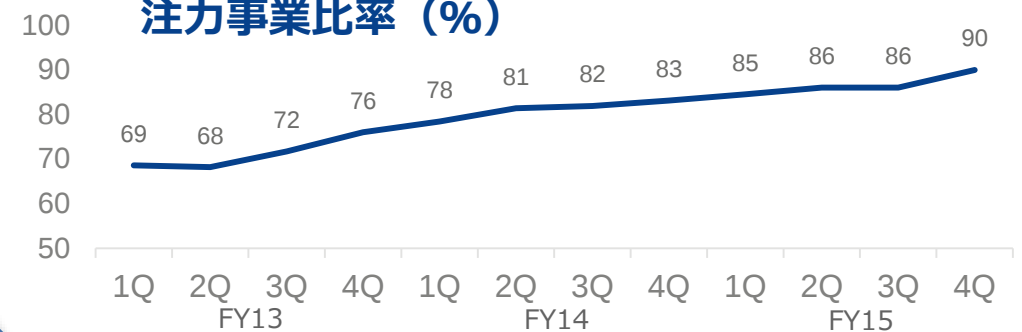


汎用向け事業

売上高（億円）



注力事業比率（%）

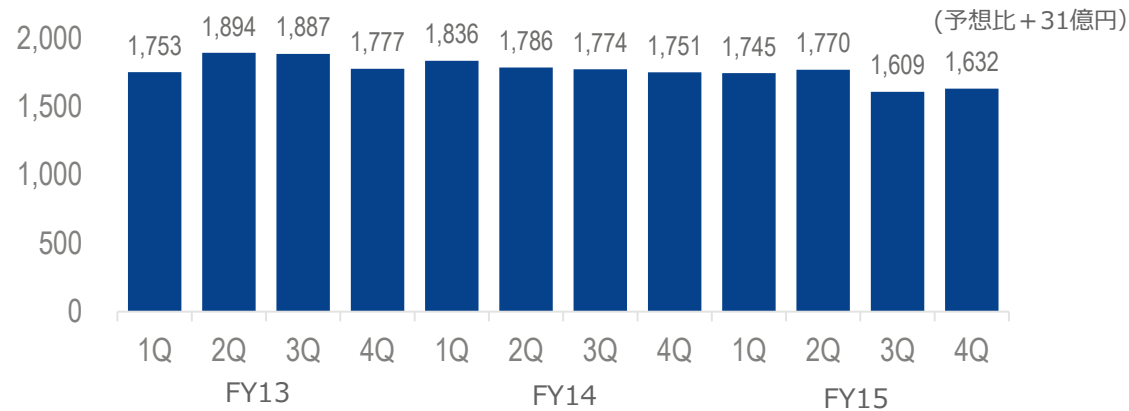


*1 Non-GAAPベース：RSP(ルネサスエスピードライバ)にかかる売上および損益の影響、LTEモデム事業にかかる損益の影響、作り貯めの損益の影響を控除

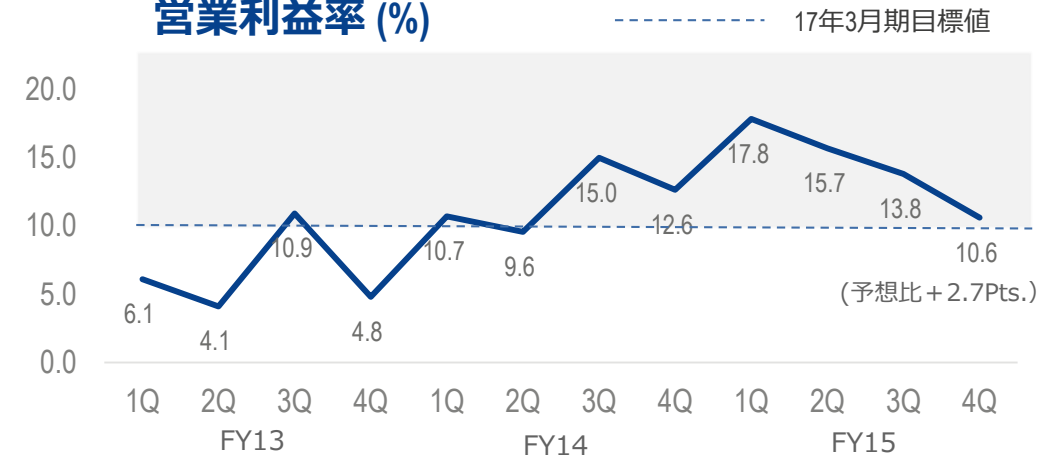
四半期業績推移 (Non-GAAPベース)

上期に貢献した一時的な売上総利益増加要因の反動減や期末費用集中により、売上総利益率・営業利益率は前四半期比で低下するも、予想比では増収などにより改善

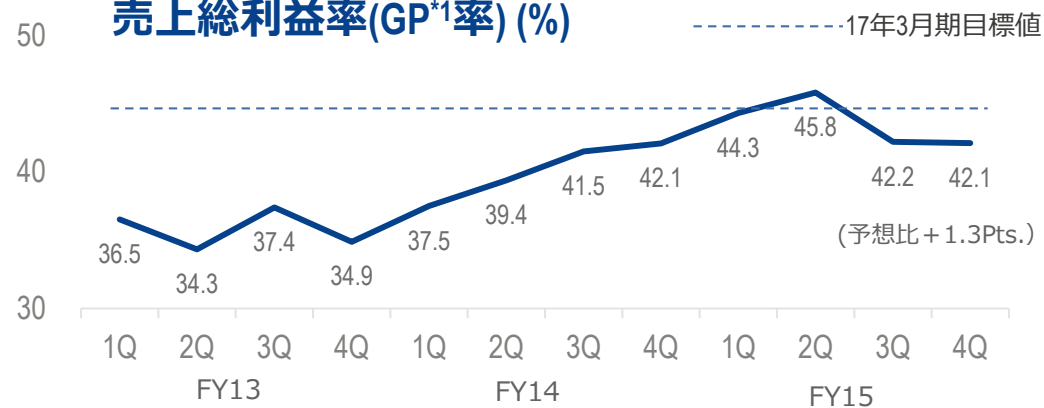
半導体売上高 (億円)



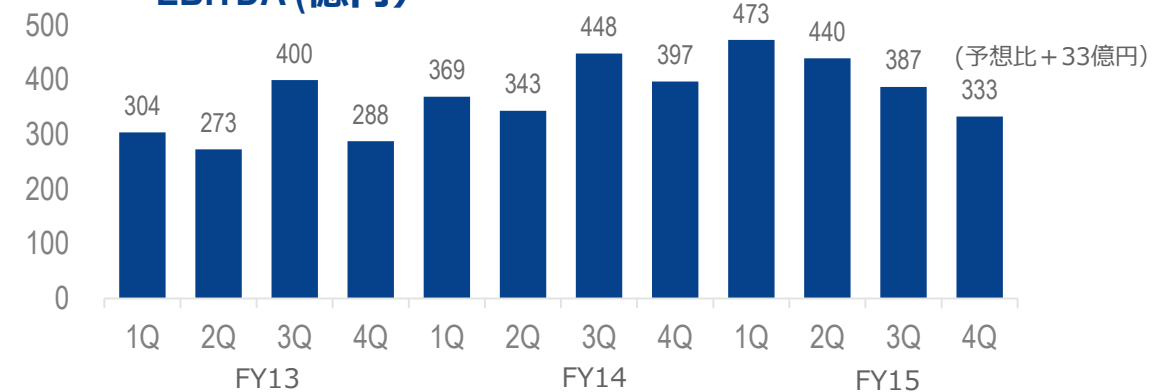
営業利益率 (%)



売上総利益率(GP*1率) (%)



EBITDA (億円)

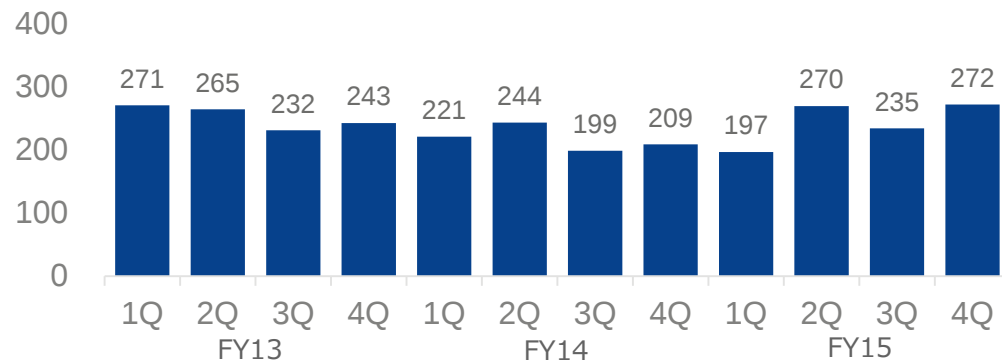


*1 GP : Gross Profit

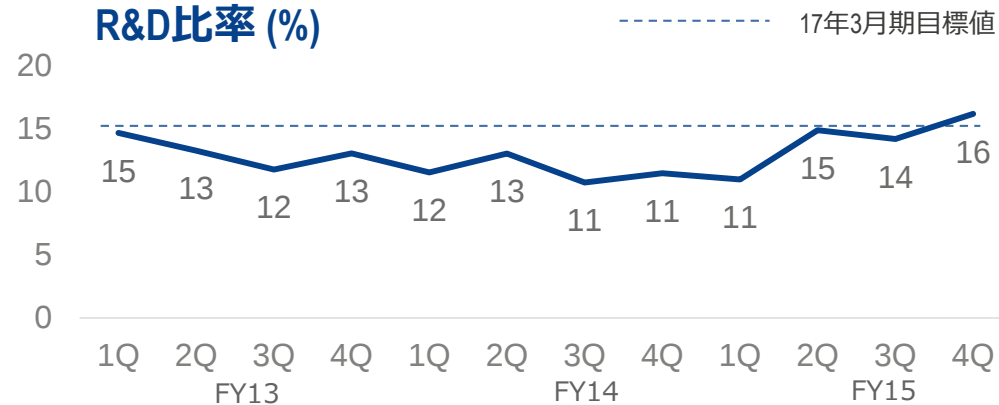
R&D、SG&A推移 (Non-GAAPベース)

注力分野の開発強化により、R&D比率は上昇傾向

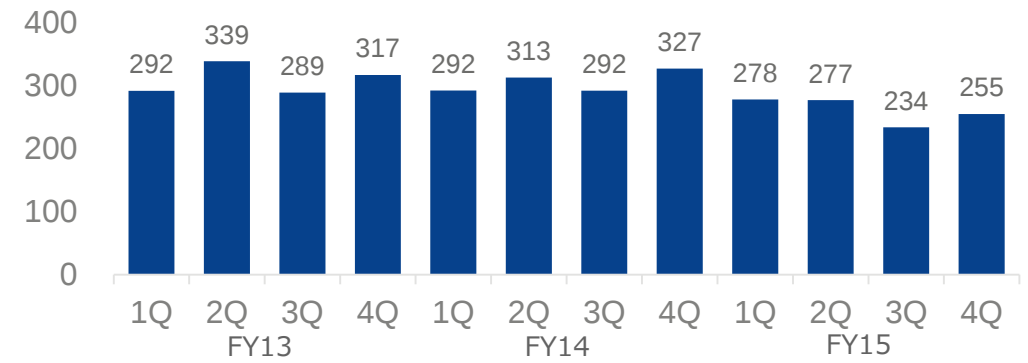
R&D (億円)



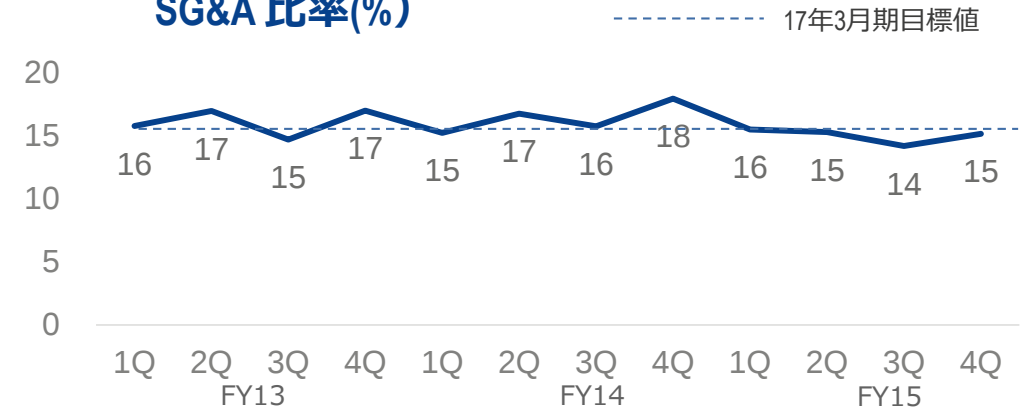
R&D比率 (%)



SG&A (億円)

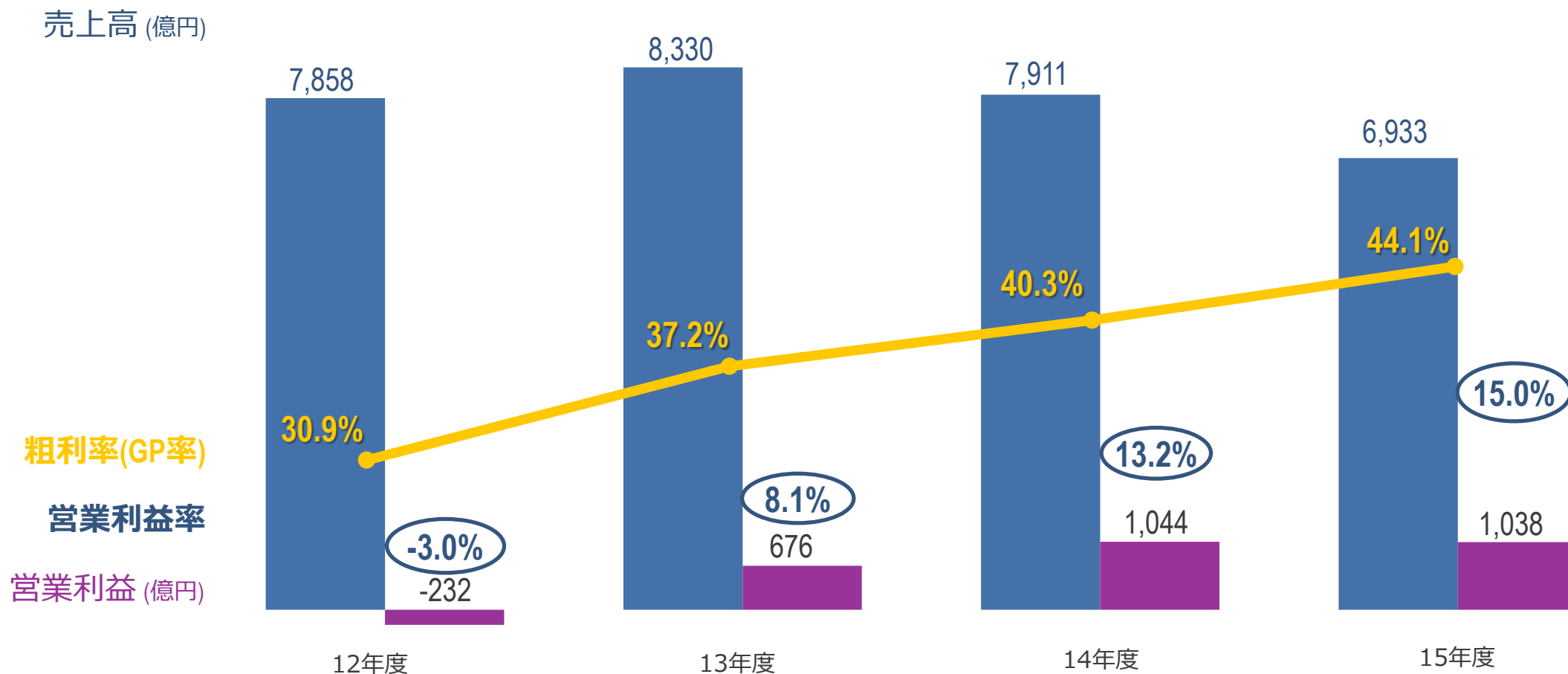


SG&A 比率 (%)



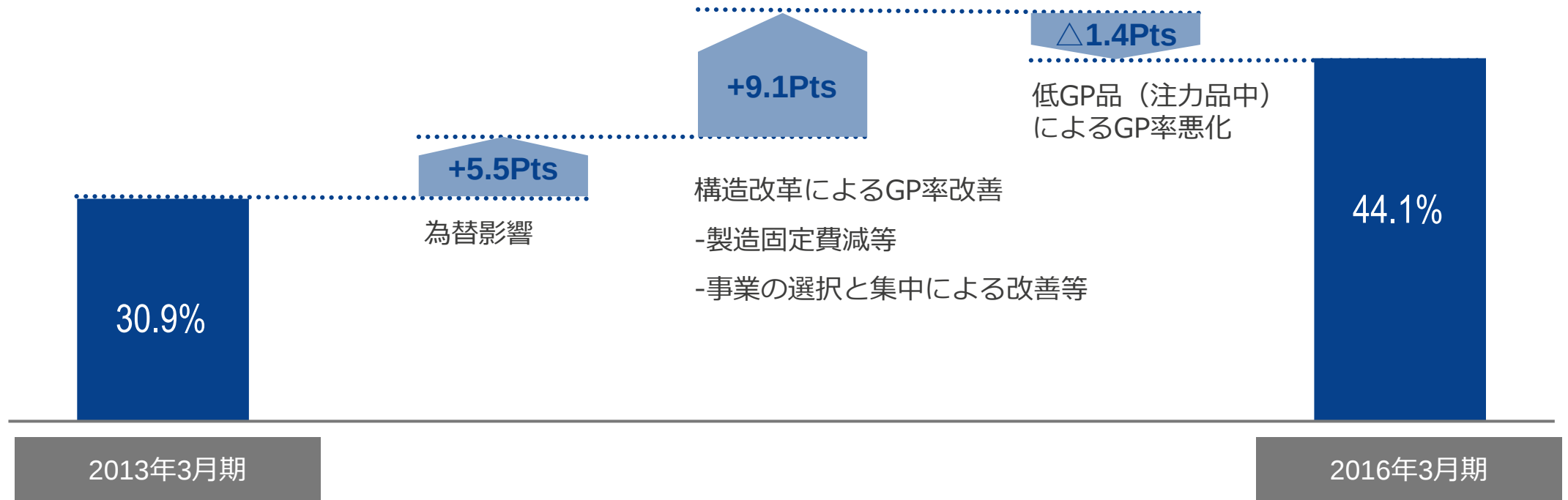
変革プランによる利益改善状況

粗利率改善に加え、費用効率化により営業利益率も改善



GP率推移

構造改革に伴う固定費削減や為替影響により改善するものの、一部課題として低GP品の存在によりGP率の押し下げ要因となっており今後の課題と認識



決算期変更と今後の見通しについて

決算期の変更とIFRS適用の検討

国際的な競争に勝ち残るグローバル企業となるための基礎づくり

国際的な資本市場において一般的で、競合他社の多くと同じルールを採用

国際的な決算期

12月決算の採用

同じ会計期間での情報開示
＜2016年12月期より適用予定*1＞

国際的な会計基準

IFRSの適用

同じルールに基づいた財務情報
＜2017年12月期より適用検討中*2＞

- ✓ 国際的な同業他社との業績比較の利便性を向上
- ✓ 多様な手段を有効活用し、事業資金の調達、強固な財務基盤を確立

*1 2016年6月28日開催予定の第14期定時株主総会で、「定款一部変更の件」が承認されることを条件としています。2016年12月期は、2016年4月1日から2016年12月31日の9か月間となります。

*2 2017年12月期の有価証券報告書の財務諸表から国際財務報告基準（IFRS）を任意適用する検討を進めています。

2016年12月期第1四半期業績予想

- ✓ 平成28年4月14日以降に発生した熊本地震により、当社グループの生産拠点が被災し、またサプライチェーンに影響が発生していることから、現時点において業績予想の策定が困難な状況
- ✓ 今後、開示が可能となった時点で速やかに公表する予定

今後の見通しについて

変革プラン目標の達成に向けた課題

2016年度（2016年4月-12月期）

変革プラン目標

2016年度市況

- ✓ 当社をとりまく環境が不透明

低GP品によるGP悪化要因

- ✓ 注力製品の内、過去に売上志向で獲得した複数商談による低GP品の影響が顕在化

2016年度

粗利率
45%
営業利益率
2桁%

2016年4月～
熊本地震

サプライ
チェーン全体
の復旧に全力

目標を
達成へ

APPENDIX

GAAPとNon-GAAP間の調整項目

(億円)	2014年3月期				2015年3月期				2016年3月期			
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	前4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
半導体売上高 (GAAP) ①	1,896	2,077	2,076	1,918	2,012	1,996	1,774	1,751	1,745	1,770	1,609	1,632
RSP ^{*1} ②	△143	△183	△190	△141	△176	△210	-	-	-	-	-	-
半導体売上高 (Non-GAAP) ①+②	1,753	1,894	1,887	1,777	1,836	1,786	1,774	1,751	1,745	1,770	1,609	1,632
売上総利益 (GAAP) ①	727	779	840	752	805	816	786	781	798	855	718	685
RSP②	△52	△66	△69	△44	△60	△64	-	-	-	-	-	-
作り貯め ^{*2} ③	-	△28	△36	△58	△26	△17	△17	△14	△4	△23	△23	+21
売上総利益 (Non-GAAP) ①+②+③	675	685	736	650	719	735	769	767	794	832	695	706
営業利益 (GAAP) ①	98	109	300	170	270	235	295	244	324	307	250	157
RSP②	△38	△47	△49	△22	△39	△40	-	-	-	-	-	-
LTEモデム事業 ^{*3} ③	52	48	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
作り貯め④	-	△28	△36	△58	△26	△17	△17	△14	△4	△23	△23	+21
営業利益 (Non-GAAP) ①+②+③+④	112	81	215	90	205	179	278	230	320	284	227	178
R&D (RSP)	11	15	16	18	18	19	-	-	-	-	-	-
SG&A (RSP)	3	3	4	4	3	5	-	-	-	-	-	-
R&D (LTEモデム事業)	43	38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SG&A (LTEモデム事業)	9	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

*1 RSP：2014年10月1日に譲渡したルネサスエスピードライバの売上高および営業損益

*2 作り貯め：工場再編に伴う、EOL製品の作り貯めにかかる損益

*3 LTEモデム事業：2013年10月1日に譲渡したLTEモデム事業にかかるR&DおよびSG&A

バランスシートの状況

自己資本比率は40%台まで改善

(億円)	2015年3月末	2015年6月末	2015年9月末	2015年12月末	2016年3月末
総資産	8,401	8,518	8,664	8,628	8,494
うち 現金及び現金同等物	3,437	3,687	3,881	4,051	3,984
うち たな卸資産	1,114	1,131	1,166	1,149	1,084
負債合計	5,282	5,070	5,060	4,834	4,676
うち 有利子負債	2,597	2,594	2,548	2,521	2,443
株主資本	2,778	3,077	3,353	3,538	3,641
純資産合計	3,119	3,447	3,604	3,793	3,817
D/Eレシオ(グロス)	0.84倍	0.76倍	0.71倍	0.67倍	0.64倍
自己資本比率	36.8%	40.2%	41.3%	43.7%	44.7%

(注) ①現金及び現金同等物：「現金及び預金」と「有価証券」の単純合算値から「預入期間が3ヶ月を超える定期預金」を控除しております。

②有利子負債：「短期借入金」、「1年内返済予定の長期借入金」、「リース債務」、「長期借入金」

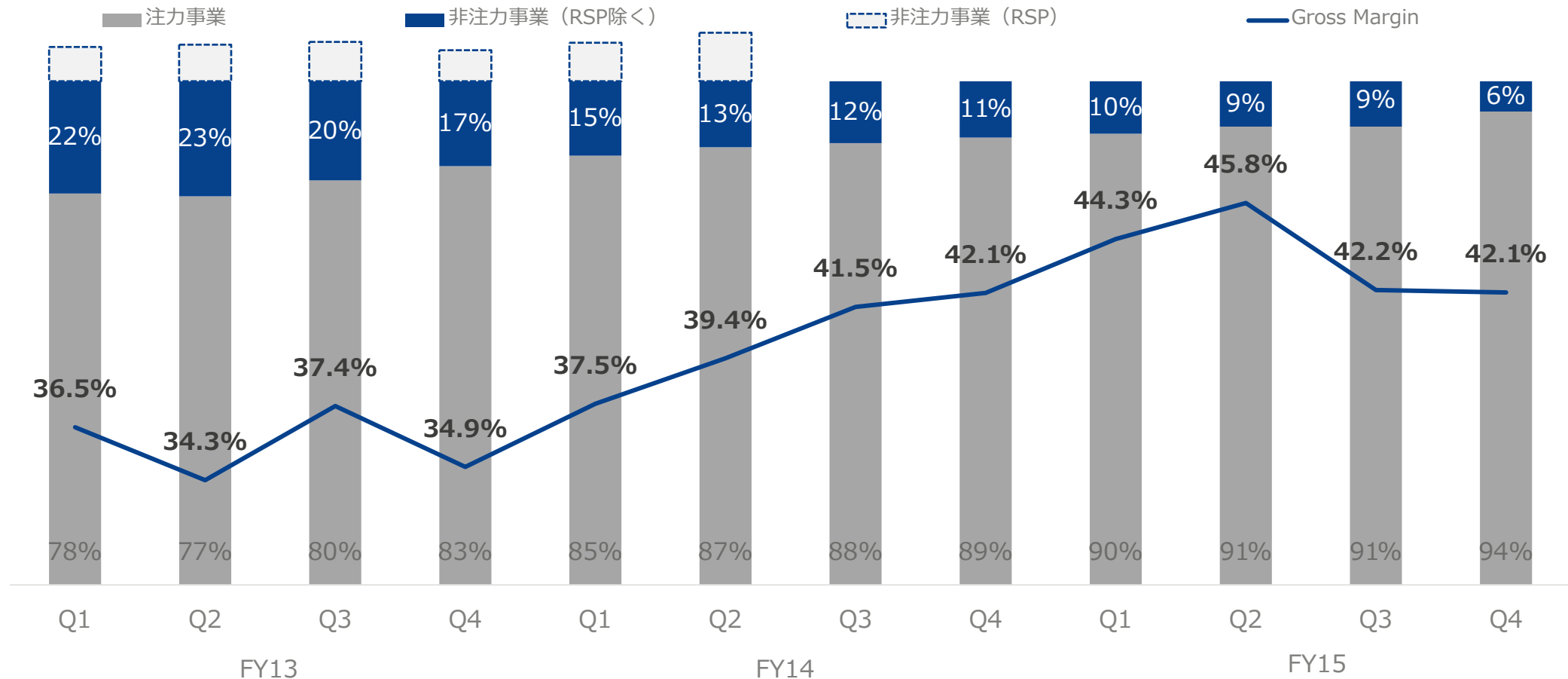
③自己資本：「株主資本」、「その他の包括利益累計額」 ④D/Eレシオ(グロス)：有利子負債／自己資本

キャッシュ・フローの状況

(億円)	2015年3月期				2016年3月期			
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
営業活動による キャッシュ・フロー	20	495	410	242	315	451	326	170
投資活動による キャッシュ・フロー	△109	△149	72	△80	△54	△120	△97	△65
フリー・キャッシュ・ フロー	△89	347	482	162	262	331	230	105

注力・非注力事業売上比率と売上総利益率推移 (Non-GAAPベース)

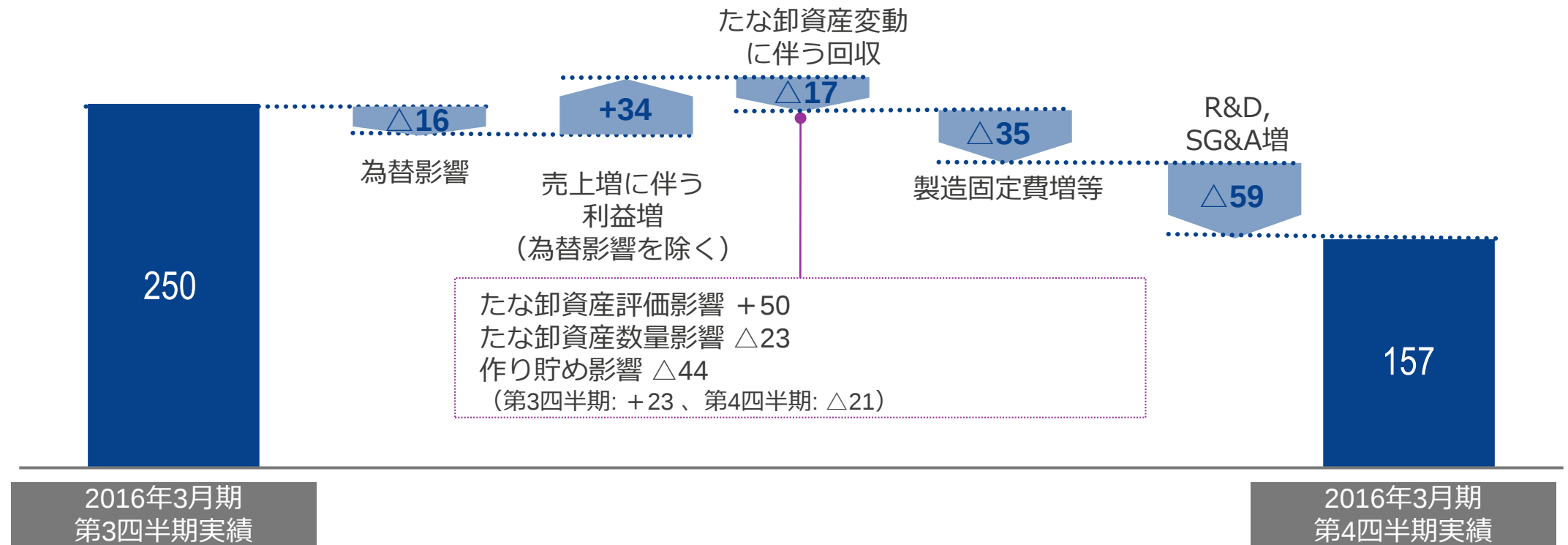
構造改革を進め売上総利益率を引き続き改善し、市場変動に耐性のある体質へ変革



2016年3月期 第4四半期 営業利益

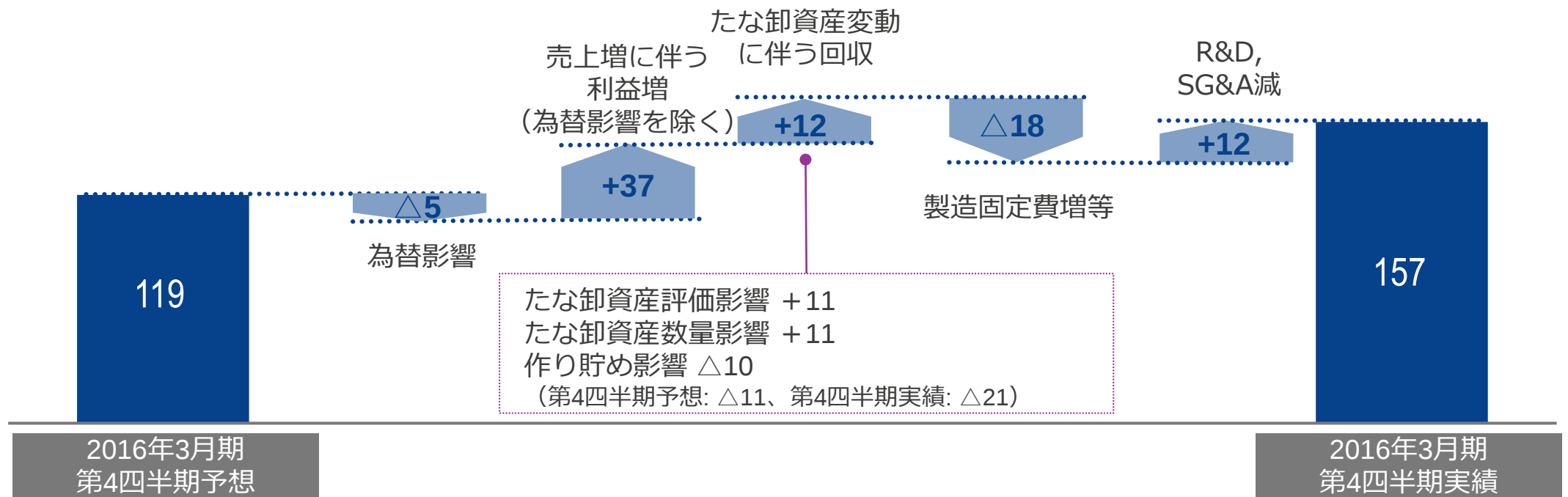
前四半期比 (億円)

- 売上増となるものの、費用増やたな卸資産変動に伴う回収減および為替影響により前四半期比92億円減



2016年3月期 第4四半期 営業利益 予想比 (億円)

- 売上増に伴う利益増やたな卸資産変動に伴う回収増や費用抑制などにより予想比38億円増

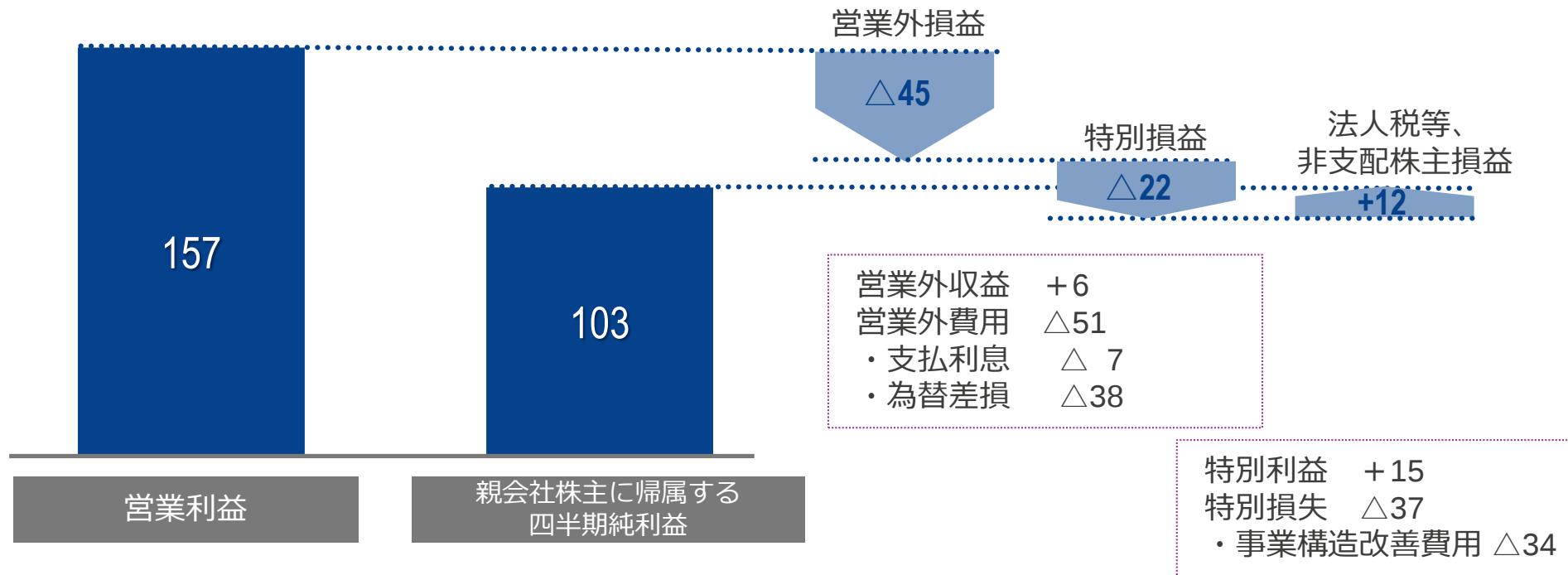


2016年3月期 第4四半期

親会社株主に帰属する四半期純利益

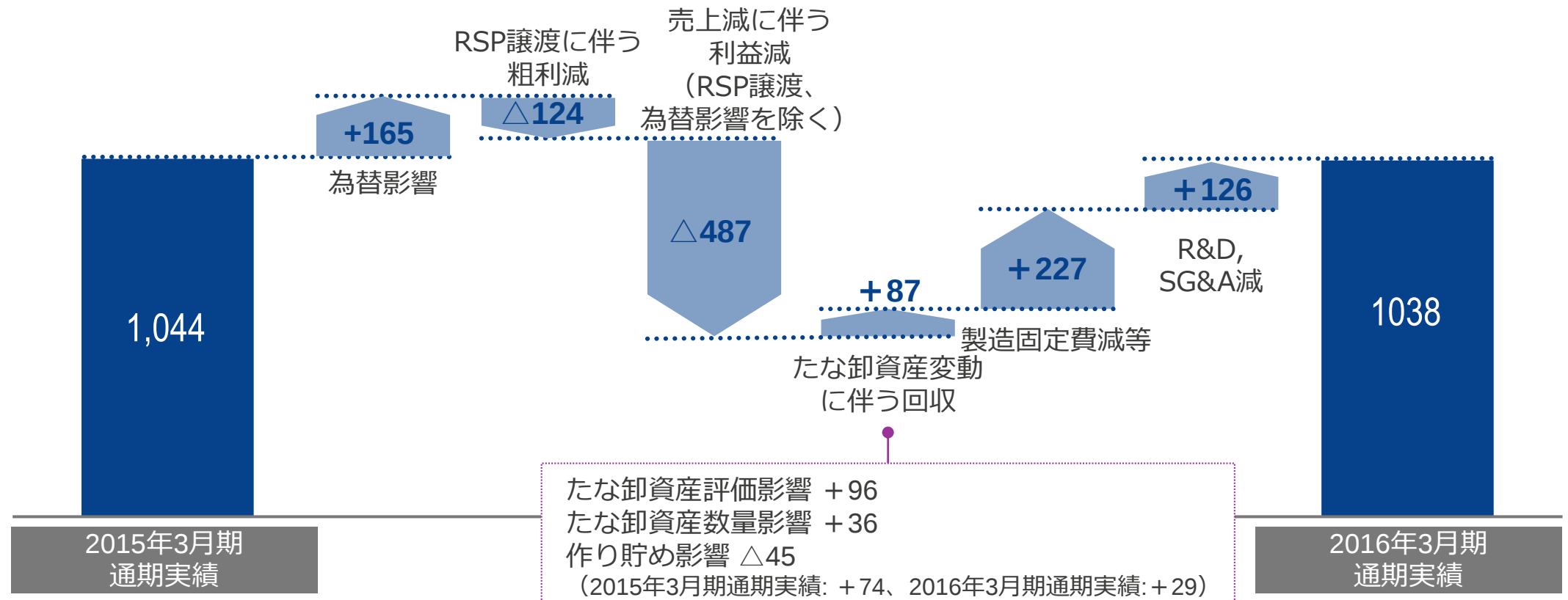
(億円)

- 第4四半期は、親会社株主に帰属する四半期純利益は103億円の黒字で着地



2016年3月期 通期 営業利益 前期比 (億円)

- 売上減に伴う利益減、RSP譲渡に伴う粗利減が大きいものの、構造改革による製造固定費減やR&D、SG&Aの効率化および為替影響などにより、営業利益は前期比と同水準の1,038億円



2016年3月期 通期 親会社株主に帰属する当期純利益 (億円)

- 139億円の特別損失もあり、親会社株主に帰属する四半期純利益は863億円



（将来予測に関する注意）

本資料に記載されているルネサス エレクトロニクスグループの計画、戦略及び業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づきルネサス エレクトロニクスグループが判断しており、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としては、（１）ルネサス エレクトロニクスグループの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、（２）市場におけるルネサス エレクトロニクスのグループ製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、（３）激しい競争にさらされた市場においてルネサス エレクトロニクスグループが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、（４）為替レート（特に米ドルと円との為替レート）の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。